

3・4月号

真宗大谷派 長浜教区

第24組

# 広報

発行日

2012年 3月1日

第146号

発行責任者

組長 紘澤成互

## 門徒会役員新たに選出される

門徒会長 小高寛三 (千田)

々副会長 水上 滋 (布施)

々会計 川崎 勝 (西野)

時期 ; 2月18日

於 ; 来入寺

幹事

福田喜嗣 (東阿閉)

天野 忠 (西柳野)

橋本久美 (磯野)

雨森善司 (唐川)

富田光彦 (木之本)

二宮芳和 (北布施)

会計監査

松山治彦 (西阿閉)

森田義人 (横山)

この度二十四組門徒会の  
の会員様の任期満了に  
よる改選期に当り、新た  
に各寺から下表のとおり  
選出された方々から、  
ここに掲げる方々が  
役員として大変お世話  
を頂くこととなります。  
三年間よろしくお願  
いいたします。

五村別院護持運営委員

天野隆司 (西柳野)

布施孫市 (西物部)

このページ全て敬称は略させていただきました

## 24組 新門徒会員一覧欄表 (12年3月10日~15年3月9日)

No.	所属寺院名	氏名	氏名	No.	所属寺院名	氏名	氏名
1	淨教寺 (東阿閉)	福田 喜嗣	山岡 光雄	16	立圓寺 (東高田)	田川 健吾	七里 從三
2	恩覺寺 (西阿閉)	阿閉 栄一	下村 博史	17	猶存寺 (布施)	水上 滋	水上 孝司
3	覺勝寺 (西阿閉)	北川 正	松山 治彦	18	長照寺 (唐川)	井上 武久	雨森 善司
4	了覺寺 (熊野)	高山 栄作	柴田 清	19	圓常寺 (千田)	林 幸夫	林 伊和男
5	圓行寺 (西柳野)	天野 忠	天野 隆司	20	来入寺 (千田)	小高 寛三	林 忍
6	随願寺 (柳野中)	高田 好之	山中 重太郎	21	報春寺 (田部)	田部 務	中嶋 貞夫
7	妙覺寺 (東柳野)	弓削 郷史	弓削 朝代茂	22	明樂寺 (木之本)	富田 光彦	布施 紘一
8	教覺寺 (重則)	元野 敏	森口 正幸	23	明德寺 (黒田)	今居 實	日下 重寿
9	充滿寺 (西野)	川崎 勝	野洲 昭夫	24	誓海寺 (大音)	細川 勝義	横関 隆幸
10	覺念寺 (松尾)	前田 勝彦	前田 孝百	25	樹徳寺 (田居)	川橋 興嗣夫	笹治 宏征
11	本宗寺 (磯野)	橋本 泉	橋本 久美	26	西徳寺 (赤尾)	二宮 芳和	田辺 和義
12	梅龍寺 (磯野)	上松 政一	川越 隆夫	27	残景寺 (下余呉)	間所 昭司	堀江 栄治
13	雙林寺 (西物部)	宇城 克臣	布施 孫市	28	明源寺 (今市)	畑野 和夫	小西 克己
14	證光寺 (東物部)	村田 新五	北川 正	29	明正寺 (小谷)	森 平一郎	横居 正道
15	慶福寺 (横山)	森田 義人	中橋 昭	30	景好寺 (柳ヶ瀬)	山崎 誠一	熊谷 幸孝

# 東北地方太平洋沖地震救援物資ご提供のお願い

災害が発生してから一年が経過しようとしています。甚大な被害の中で、被災された多くの方々  
困難な生活環境の中で過されています。特に高濃度の放射能汚染が懸念され、安心して飲食でき  
る「お米」と「飲料水」を求められる声が高まっています。宗門においても、長期的支援の取り組み  
として現在「お米」並びに「飲料水」のご提供をお願い致しております。既に1月30日現在で、長浜教務所  
にお届けいただいた救援物資は、お米約1,030 kg(約17俵)・飲料水 436ℓ(2ℓ入りペットボトル 218 本)となっ  
ています。

又、救援金も長浜教務所に1月30日現在で 13,015,371円お届けいただきました。皆様の心温まる  
ご協力に厚くお礼申し上げますとともに、これからも引き続きよろしくお願い申し上げます。

【救援物資】 ＊お米(白米、玄米どちらでも可。数量は問いません)

＊飲料水(数量など問いません。市販品に限ります)

【提供先】 長浜教務所(長浜市元浜町32-4 ☎62-0737)

※詳細については長浜教務所やお手継ぎ寺へお問い合わせください。



## お知らせ

### 第二回育成員研修会のご案内

日時・三月三十一日(土)午後七時

会場・妙覺寺(高月町東柳野)

講師・古田和弘氏(九州大谷短大名譽学長)

講題・「正信偈に学ぶ」

二十四組寺族部会では、来る三月三十一日に古田和弘先生をお迎えし、「正信偈に学ぶ」を  
テーマに研修会を開催致します。第一回目は、竹中慈祥氏を講師に正信偈の平常勤行を学び、  
詳細にわたっての解説や実技の指導を受けました。大変有意義な研修会でした。  
今回は正信偈の内容を詳しく学ばせていただく企画です。住職・寺族はもちろんのこと、  
広く門徒の方にもご出席していただきたくご案内申し上げます。

先生は、今別院の「しんらん講座」の講師としてお越しいただいております。せっかくの  
機会ですので、お誘い合わせてご来場くださるようお願いしております。

【先生のプロフィール】

1935【昭和十年】京都市生まれ。大谷大学教授を経て、九州大谷短期大学副学長現在

九州大谷短期大学名誉学長。専攻は仏教学(特に中国仏教)

【著書】『正信偈の教え』『涅槃経の教えわたしとは何か』『宗祖親鸞聖人に会う』

『大経に学ぶ』など多数

## 教区声明儀式研修会のご案内

日時・三月十六日(金) 十九時

会場・長浜教務所 二階

講師・竹中慈祥氏

参加費・五〇〇円



# 長浜教区内両別院での主な行事予定

## 長浜別院（大通寺）



### 春季彼岸会

法話者

- 3月18日(日) 中濱顯文氏(白櫻寺)
- 3月19日(月) 古松了祐氏(頓念寺)
- 3月20日(火) 藤邊匡文氏(南流寺)

### 紙芝居のよみかた講習会

- 4月 7日(土) 午後1時30分～午後4時  
(受付開始:午後1時～)
- 開催趣旨 日曜学校・子ども会と指導者の充実を図る。
- 場 所 桜の間

\*\*\*\*\*

広く社会に開かれた真宗講座

### しんらん講座

- 日 時 ; 3月 8日(木) 午後2時～4時
- 4月19日(木) 午後2時～4時  
(受付は午後1時30分から)

講 題 ; 「正信偈に学ぶ」  
 講 師 ; 古田和弘氏  
 九州大谷短期大学名誉学長

受講料 ; 一回当り 500円

お問合せ ☎62-0054



現代社会が抱える諸課題に学ぶ真宗入門講座

### 御坊さん人生講座

『宗祖親鸞聖人750回御遠忌にあいえて』  
 混迷する世の中に身を置く私たちは  
 はからずも御遠忌にあわせていただきました。  
 はたして親鸞聖人にお会いできましたか？

「心を弘誓の仏地に樹て」

(『教行信証』化身土巻末 親鸞聖人 真宗聖典400頁)

今こそ、新たに、聴聞してまいりましょう。

●時 間 : 午後7時から8時30分

(受付は午後6時30分から)

●3月14日(水) 松村 薫子

呉市海事歴史科学館学芸員

●4月 3日(火) 宮森 忠利

小松大谷高校副校長

●受講料 ; 一回当り 500円

## 五村別院（虎姫）

### 春季彼岸会

法話者

- 3月21日(水) 玉樹 惇氏(西照寺)
- 3月22日(木) 伊藤尚典氏(真入寺)
- 3月23日(金) 藤脇義乗氏(専光寺)



## 組内各寺の法座等のご案内

会 場	法 座 名	期 日	法 話 者
浄教寺(東阿閉)	彼岸会	3月20日(火) 17時~	住 職
圓行寺(西柳野)	永代経	3月 3日(土) 9時30分・13時	秦 信映氏(明德寺)
妙覺寺(東柳野)	彼岸会	3月20日(火) 16時~	代務住職
梅龍寺(磯 野)	永代経	3月25日(日) 10時・13時	住 職
雙林寺(西物部)	永代経	3月10日(土)	
圓常寺(千 田)	永代経	3月11日(日) 10時・13時	井口光俊氏(宿善寺)
来入寺(千 田)	永代経	4月30日(月) 10時・13時	秦 信映氏(明德寺)
明楽寺(木之本)	永代経	4月10日(火) ・ 11日(水)	春近 寛氏(皆念寺)
明德寺(黒 田)	永代経	3月 4日(日) 10時・13時	堀澤俊行氏(念願寺)
誓海寺(大 音)	永代経	3月11日(日) 10時・13時	
	彼岸会	3月20日(火) 13時~	住 職
西徳寺(赤 尾)	永代経	3月 4日(日) 10時 ・13時30分	老泉俊樹氏(圓超寺)
明源寺(今 市)	永代経	4月 1日(日) 13時~	横山義淳(残景寺)

### ミニ法話

#### お彼岸について

彼岸とはただ単に「暑も寒さも彼岸まで」と言うような季節(季節)の名でなく、仏教の原語では「パーラミタ」に到彼岸、度彼岸の意味をあらわします。すなわち阿弥陀仏の浄土に生まれたいと願うことを意味することから、彼岸会といわれるようになりました。もっと言えば、信なきものが法を聞いて信心の彼岸に至る(迷いの生死の世界から、さとり)の彼岸に至る(と)ということ、人間生活のまことの意義をしめすものであります。平安初期から朝廷でおこなわれ、江戸時代には、庶民の間にも年中行事として定着した、我が国だけにある仏教行事です。四季ゆたかな我が国において、昼夜の長さが同じになる、春秋二度の変わり目のこの日を中心にした一週間を、言わば、「人間回復週間」にしてきたわれらが、先祖の智慧に、敬服せずにはいられません。

そして今一つ、彼岸会の大切な意味は、向こう岸のみをあこがれていたのではなく、「こちら」の岸つまり、私と私が生きているこの世界とを直視することに重点がおかれていたことです。彼岸のお中日は、お墓参りの日。先祖を供養する日、だから休日なのだ(と)決めていたとしたら、大間違いといわなければなりません。お墓は、私が、先祖とともに、人生の道しるべとしての仏法を確かめさせていただくことなのです。

この私が、混沌としたこの現代社会、又、何をよりどころとして生きて行ったらいいか分からなくなってしまう時代にあつて、人間を見失うことなく、苦悩から逃避することなく、いただいたいのちを精一杯生きる「こと」のできる私に生まれ変わってこそ、先祖への供養ともなるのではないのでしょうか。

「先祖から大きな願がかけられている私達が、人間を回復しないまま、「忙しい、忙しい」ああなうていたら、こうなっていたら」と、「善悪のものさし」を絶対化して、ただいたすらに生きている姿を見せていては、「先祖の供養もないのではありませんか。やはり、お彼岸は、私自身のための「人間回復週間」といふべきです。

善導大師は『観経疏』に念佛して西方往生の願行をなす春秋の二節を取る」といふ言葉もありまして、特に仏法聴聞にはげむ時節としたことは意義あることでもあります。

「ご家族までお参り致しますよう。」

〈秦〉